

こちら 道立羽幌病院 です

小児科 須貝先生のお話し

「こどももの痛み あるいは、泣く」(2)



頭

こどもが頭痛を訴えた場合、ご両親が一番心配に思うのは、脳腫瘍や髄膜炎・脳炎であったりします。しかし脳腫瘍の場合、頭痛から始まつたりせず、その前に歩行困難になつたり、言葉が出にくく、物が二重に見えたりします。また、髄膜炎・脳炎の場合は発熱、頭痛に加えて、繰り返し嘔吐、首の痛みが伴います。

こどもたちの頭痛の原因で一番多いものは「かぜ」です。かぜウイルスがしずまると頭痛も消えていきます。

意外に思うかもしれませんが、こどもでも大人のような片頭痛や緊張からくる頭痛を起すことがあります。この場合は大人と同様に、静かなところで休ませます。また、周囲の環境からくる緊張を軽くしてあげたりすることも有効と考えられます。

おなか(1)

強い腹痛を起こした場合、まず心配するのは「盲腸(虫垂炎)」ではないでしょうか。もちろんこれは大変危険な病気です。その可能性を疑うことは大切なことです。

しかし、むやみに心配しないために虫垂炎の一般的な症状は知っておくべきでしょう。虫垂炎の痛みははじめから

『右下』にあるわけではなく、お臍(へそ)のあたりが痛い、など別なところを痛がりますが、時間の経過とともに『右下』に集中してくることが特徴です。また、強烈的な痛みが「持続的」に続きます。胃腸炎のような下痢症状は通常ありません。

なおも疑わしい場合には病院と連絡をとりつつ症状の経過を見守ることが大切です。